



「南海本線高架化完成記念式典・シンポジウム」を無観客で開催

ウィズ・ポストコロナ～大阪・関西万博 新たな時代の地方都市のありかた

長年に渡り取組みを進めてきた南海本線の高架化が5月22日遂に完成。鉄道高架化を契機とする今後のまちづくりをテーマとしたパネルディスカッションの内容を一部お伝えします。基調講演を含めたシンポジウム全体的様子は市ホームページのTOPページからご覧いただけます。 問合せ 事業課 ☎(275)6412

高石駅周辺のまちづくりとアプラたかいしのリニューアルのイメージ図



※写真はイメージであり、変更になる場合があります

高架化を活かした まちづくり

阪口市長…今回の鉄道高架化により13箇所の踏切が解消し、東西が自由通路で結ばれ、駅周辺が活性化されます。今後、高石駅前広場の芝生化や、アプラたかいし2階にT-SUTAYAと連携した「BOOK&CAFE」をオープンするなど多世代が交流できる場をつくっていく予定です。

また羽衣駅ですが、今回の高架化完成によりペデストリアンデッキがフル稼働し、地上に下りることなく移動することが可能となります。そして、JR東羽衣駅北側にある市有地の活用については、リモートオフィスと住宅を誘致して高石の北ヤードとし、職・住・子育て一体の都市づくりをめざしたいと考えています。



阪口伸六市長

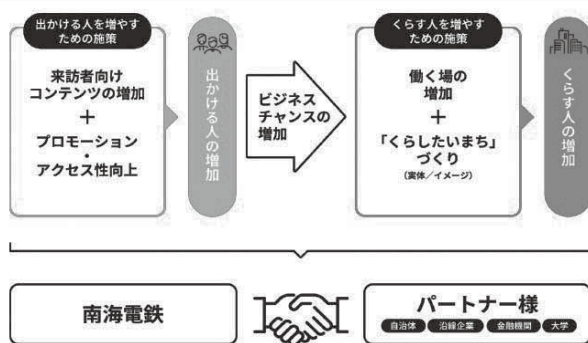


和田真治氏
南海電気鉄道株式会社
執行役員
まちづくり創造室長

和田氏…南海電鉄は、選ばれる沿線をめざし、沿線の「出かける価値」と「くらす価値」の向上に取り組んでいます。「出かける価値」としては、高野山観光魅力向上プロジェクトや、加太におけるリノベーションスクエアなどを実施しています。「くらす価値」につきましては、「アトツギソン」という沿線の家業を活かした新規事業をチームごとに考えるワークショップを開催しています。また、沿線に若者の定住を促進するため、「コタツ就活」という取り組みで、沿線企業の合同企業説明会を主催しています。出かける方が増えるとビジネスチャンスが増え、暮らす人が増えるという取り組みです。それを弊社だけでなく、自治体、沿線企業、金融機関や大学、そして市民の皆様と一緒に進めていくことが重要だと思っています。

沿線に若者の定住を促進するため、「コタツ就活」という取り組みで、沿線企業の合同企業説明会を主催しています。出かける方が増えるとビジネスチャンスが増え、暮らす人が増えるという取り組みです。それを弊社だけでなく、自治体、沿線企業、金融機関や大学、そして市民の皆様と一緒に進めていくことが重要だと思っています。

沿線価値向上



プロジェクト方針イメージ図

泉州地域独自の 魅力的なまちづくり

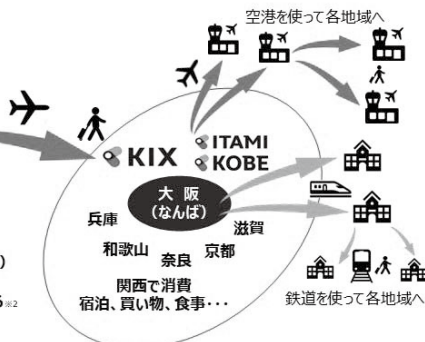
橋爪氏…大阪・関西万博の開催を契機に、観光も移動型から滞在型へと変化し、留学生の受け入れや雇用にも繋がっていくと思います。そこで長期滞在しても、飽きのこない地域独自の仕掛けづくりが必要ではないでしょうか。

山谷氏…観光が回復した時に重要なことは、交流の促進だと思います。

関西国際空港からのインバウンドの流れ

世界人口 76億人※1
内 アジア人口 46億人※1

KIX入国のインバウンドの内
➢ 75%が関西にとどまる※2
(25%が他のエリア訪問)
➢ 72%はまず大阪を訪れる※2



© KANSAI AIRPORTS

※1 United Nations World Population Prospectsより
※2 2017年訪日外国人流動データ (FF-Data) より



山谷佳之氏
関西エアポート株式会社
代表取締役社長CEO

現在行なっているKIX泉州国際マラソンやサイクリングコースの整備などは旅行者と地域をつなぐ取り組みです。要するに、地域にきていただく旅行者の方が素通りするのではなく、ファンになっていただく仕掛け作りをすることで交流が生まれると思います。

漕艇・ドラゴンボートの国際大会誘致



出典：一般社団法人日本ドラゴンボート協会HP

阪口市長…高石市には公認のボート競技用コースである浜寺水路があります。私は漕艇・ドラゴンボートの国際大会を誘致してはどうかと考えています。また、関西国際空港が復活するのは間違いありませんが、大学・専門学校における、積極的な外国人留学生の受け入れや、臨海部の企業における外国人労働者の雇用が新たな切り口になると考えています。学んだ技術を母国に持って帰ってもらう、泉州からアジア全体を盛り上げていければ良いと思いますし、外国人の方にとっても泉州に来ていただければと考えています。

自然環境・歴史・文化が一体となったまちづくり

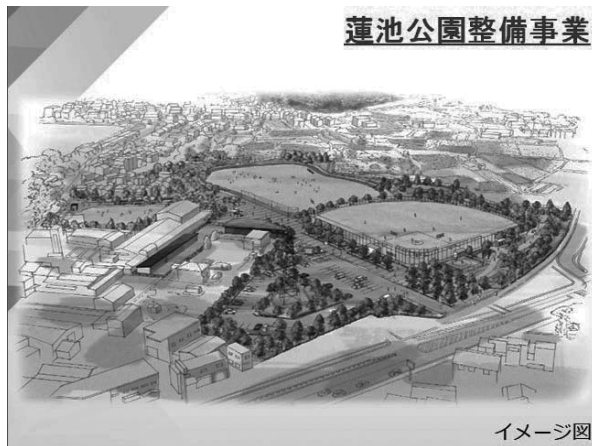


三浦良平氏
富山市副市長

三浦氏…今回のお話を伺って、泉州地域全体のコンパクトシティ・プラネットワークの概念があるのではないかと考えます。泉州地域は「関西国際空港推進協議会」を9市4町で構成して、関西国際空港の発展と沿線の発展を同時に盛り上げていく取り組みが行われています。これをさらに発展させればまちづくりの観点でも活かせるのではないのでしょうか。大事なことはビジョンをみんなで作るといふことだと思います。

阪口市長…現在、市の東部では蓮池公園の整備が進められており、その近くに和泉黄金塚古墳という歴史的な史跡があります。今後は「自然環境・歴史・文化」が一体となったスマートシティとして整備したい。そのために、JR阪和線の高架化を進めて行きたいと考えます。

蓮池公園整備事業



三浦氏…JR阪和線が高架化することにより、市街地の分断が解消されるのであれば、まちづくりにおいても非常に効果が発揮されると思います。調査のための国の補助金制度もありますので、検討を進められてはどうでしょうか。高石市の東西方向の都市交流軸について、地域の特性を考えれば、自転車利用の人がアクセスしやすいように自転車のネットワークを作っていくといった議論を進める必要があると思います。



浅井敏彦氏
大阪府都市整備部
交通戦略室長

浅井氏…新たな連続立体交差事業の具体化には膨大な事業費を要するなど、慎重な検討が必要ですが、JR阪和線の高架化は、大阪にも地域にとっても意義があることと思います。勉強会からスタートすれば、大阪府も協力を惜しみません。



橋爪紳也氏
大阪府立大学研究推進機構
特別教授

橋爪氏…ポストコロナにおいて早期回復が望まれる観光インバウンド、大阪・関西万博に向けて、連立事業による交通インフラを最大限に活かす必要があります。高石市の更なる取り組みに期待するとともに、大阪・関西の各自治体の取組みの一助になればと思います。